

葛飾区における総合型地域スポーツクラブ育成事業の政策過程に関する研究

角田 悠樹 (筑波大学)

1. 目的

本研究では、東京都葛飾区の総合型地域スポーツクラブ（以下、「SC」と略す。）育成事業の政策過程と、SCの設置が計画通りに進まなかった原因を明らかにすることを目的とし、葛飾区とSCの関係性について考察した。

2. 方法

第一に、葛飾区がこれまでにやってきたSC育成事業の政策過程を分析した。特に、葛飾区の教育委員会会議録と行政評価結果から、同区のSC育成事業に関連する事実を抽出し、考察した。第二に、関係団体に対しインタビュー調査を行った。

- 1) 対象者：葛飾区教育委員会生涯スポーツ課、「NPO法人こやのエンジョイくらぶ」、「一般社団法人オール水元スポーツクラブ」
- 2) 調査方法：質問紙に基づく、半構造化面接法。
- 3) 分析方法：葛飾区におけるSC育成事業の政策過程、葛飾区とSCの関係性、以上の二点に関するものを抽出し考察した。

3. 結果と考察

1) 葛飾区におけるSC育成事業の政策過程

葛飾区におけるSC育成事業は平成16年から始まり、育成検討委員会の設置、SC運営スタッフ・クラブリーダーの発掘、支援制度など葛飾区が中心となって進められた。平成20年には「葛飾区スポーツ振興計画」においてSCを区内に7か所設置することを目標とした。そして、平成22年までに2か所のSCが設立されたが、それ以降平成30年度現在まで葛飾区においてSCの新設はない。また、葛飾区は、SCに対して設立当時から施設・用具・物品の面で支援を行っていた。平成25年にはSCの法人化など自立に向けた動きが起り始め、葛飾区はSCに対して学校連携事業などを委託することでSCとの関係性を結んでいった。さらに、平成27年に

は物品・用具の支援を補助金制度に変更し、現在まで支援を行っている。このように、葛飾区のSC育成事業は行政主導で行われたことがわかった。

2) SC設置が計画通りに進まなかった原因

葛飾区では、平成25年ごろまでは3クラブ目の候補地選定が行われ、教育委員会でも度々議題として挙がっていた。しかし、設立に向けた動きにはつながらなかった。その原因として、活動施設を十分に確保できなかったこと、リーダー的役割を担う人材が発掘できなかったこと、葛飾区がSCの質的な充実を目指す方針に切り替えたことの3点が挙げられる。

3) 葛飾区とSCの関係性

葛飾区に現存するSCは行政から補助金、公共施設の優先利用、学校連携事業及び高齢者を対象とした事業の委託などを受けている。今後の葛飾区のSC育成事業の方針は、区内に現存するSCが現在よりも活動範囲を拡大して活動できるように支援する、いわゆる「拠点クラブ化」を進める方針であることが明らかとなった。SCからは、行政の支援なしに運営を行っていくことはできないとの回答があった。

4. 結論

葛飾区においてはSC育成が行政主導によって行われ、補助金や施設の面でも葛飾区の影響力が強い。その中で、SC側は学校連携事業や葛飾区との共同事業などを行うことで葛飾区とはパートナーシップと言えるような関係を築いている状況が明らかとなった。また、インタビュー調査においても互いに信頼しあっているような関係性が見て取れた。

5. 参考文献

- 1) 長登健・野川春夫 (2014) 日本の生涯スポーツ政策における地域スポーツクラブ育成の変遷。生涯スポーツ学研究, 1-2 (10) :1-9.